

理系×商社

〈商社で活躍する理系人材〉

文系の仕事ととらえられがちな「商社」。文系人材が多く活躍しているのは事実だが、多様な事業領域を有する総合商社において、理系の専門知識だけでなく、理系として培った考え方や姿勢などを活かして活躍している理系人材は少なくない。

事実、今回取材した三井物産では毎年多くの理系社員が入社し、活躍している。

三井物産は、主に「金属」「機械・インフラ」「化学品」「エネルギー」「生活産業」「次世代・機能推進」の6つの分野で多岐にわたる事業を展開。「マーケティング」「ファイナンス」「ロジスティクス」「リスクマネジメント」「IT・プロセス構築力」といった機能を組み合わせ、大規模な事業を含む多くの案件を成功に導いてきた。

そんな三井物産のトレーディング、事業投資、コーポレート、次世代事業の4分野で活躍する理系出身社員から、理系の素養を活かしながら、幅広い働き方ができる商社の魅力を聞いた。



◆三井物産の6つの事業分野と5つの機能

◆トレーディング

商社の仕事を通じて日本の製造業に貢献する

三井物産株式会社

機械・輸送システム本部 船舶営業部新造船プロジェクト第三室

都市環境科学研究科修了 比嘉啓登(ひが・ひろと)

世界中に日本製の輸送機械を
売り込んでいく

私が所属している船舶営業部では、国内外の船主（船を保有するオーナー・資産家）や海運会社向けに日本の新造船を販売するビジネスを行っています。「新造船」とは穀物・石炭・LNG・LPG等を運搬する数十億円程の超大型船舶です。このビジネスは資源需要や為替・世界情勢に大きく左右されることから、普段からあらゆる情報にアンテナを張り将来の船舶需要を常に予測して、船主に対して最適な規模・機能の船舶を提案しています。以前所属していた交通プロジェクト部では、インドネシア国・ジャカルタ州政府向けに日本製の鉄道システムを納める入札案件を担当していました。私が担当したのは、車両メーカーやエンジニアリング会社などの意向を取りまとめ政府への提案を作り上げていくディレクター的な立場。製品・業界知識・法務・財務を含めた総合的な視点が求められ、コストと収

益を勘案したうえでの適切な価格設定の検討や参画企業間のリスク負担の調整などに取り組みプロジェクト実現を目指しました。この仕事は、日本の製品を海外に納めるという国家的なプロジェクトに携われる魅力だけでなく、交通渋滞と環境問題を解消するという社会的目的があり、現地の人々の生活を豊かにできる点で大きなやりがいと使命感がありました。船舶分野にしても鉄道分野にしても世界中に優れた製品を提供していくことに変わりはありません。私は商社での仕事を通じて日本の製造業に貢献していきたいという思いがありますが、交渉の最前線に広めていくという形で実現していきたいと考えています。

理系の知識や素養を活かせるフィールドは一つではない

は、Heart to heartの人間関係を構築していくことも重要です。以前のプロジェクトで培った論理的・合理的な営業スタイルに、人間性を重視したスタイルを掛け合わせられれば理想なので、双方のスキルを磨き、仕事の質とお客様の満足度をさらに向上させていきたいですね。

理系と商社営業の親和性について言えば、必要となる情報を徹底的に調べるリサーチ力が必須となります。私自身工学系出身なので「もの」に強い興味があり、特定分野への理解を深めていく理系特有の探求的志向や好奇心が仕事に活きています。また、インフラ建設や船舶については機械系の知識が活きる場面があり、担当する製品や業界によっては理系の専門知識が活かされます。

◆事業投資

人々の生活を劇的に変え、数十年後の未来を作る

三井物産株式会社

基礎化学品本部事業開発部EPC支援室／新領域創成科学研究科修了

小川晃旦(おがわ・てるあき)

電気がない地域に発電機を設置し、生活を劇的に変えた

入社後、私はまず基礎化学品本部に配属され、プラスチックの原料になるビス

専門知識が直結するメーカーなどを志望する理系学生が多いかもしれませんが、自身の専門知識や素養を活かせるフィールドは一つではありません。なんらかの形で社会に貢献したいという強い思いがあれば、幅広い領域を扱うことができる商社で理系の強みを活かすという選択肢もあるのです。

フェノールAという化学薬品のトレーディング業務を担当しました。その後、プロジェクト本部で主にアジアを対象とした発電所や、シエールガスなどのエネル





した理由。特に総合商社の事業投資という観点からすると、単一の製品を作ったり、売り、利益を得るというだけではなく、総合的な国造りを考え、「実現したい国のあり姿があるからこれを作る」という、より大きな視座で投資事業に取り組むことができます。2、3年後のビジネスだけでなく、20年、30年後の未来を作る仕事なのです。

理系的な思考と多様な経験を積みたいという想いが活きる

ギーク分野でのインフラ開発に携わった後、再び基礎化学品本部へ戻り、現在は同部門内での事業投資業務を担当しています。総合商社で働く魅力は、社会に対して大きなインパクトを与えることができる点。私自身の例を挙げれば、プロジェクト本部に在籍していた頃、東南アジアでの発電所開発プロジェクトを担当しました。電力が不足していた地域に発電機を据え付けることで、人々の暮らしは劇的に変化。電灯が灯されることで地域が安全になり、中長期的には病院や学校といった社会基盤や交通インフラの整備も可能になります。学生の頃に夢見ていたような影響力の大きい仕事を実現できたのです。

私は学生時代には実験室にこもって研究をしていましたが、そこから飛び出し、「様々な人を巻き込んで、世界を相手に仕事がしたい」と考えたのが総合商社を志

情報を整理して論理的に説明することが求められます。日々膨大な情報が入ってきますが、そこから本質は何かをロジカルに

◆コーポレート

事実を重ね、数字を作るプロセスは実験と同じ

三井物産株式会社 経理部 決算統括室／理学系研究科修了

山中里奈(やまなか・りな)

突き詰めて、発信していくという理系の素養が活かしていると感じています。

周囲の動きに注意を配り、分析した上で数字を作る

経理部でのミッションは大きく分けて二つあります。一つは四半期毎に開示数値を作成することで、もう一つは今年の第一四半期にかけて適用を進めていた国際会計基準(IFRS)への対応です。その中で私は、まだ入社3年目ながらも、キャッシュフロー計算書の中の投資キャッシュフローという項目に関しては主担当として任せてもらっています。

特に、キャッシュフローの数字については社内での注目も高まってきており、開示数字を作成するだけでなく、経営に貢献できる数字の見せ方にも工夫を加える分析をしっかりと行うようにしています。どのような数値を出せば経営に貢献できるのかは、数字と向き合っているだけで

はなかなか見えてきません。それぞれの部署の案件や、関連するニュースを把握するよう日々心がけています。

入社して気づいた理系と経理の共通点

理系と経理は直接関連がないように思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、超伝導に関する基礎研究に携わっていたのですが、社会に係わる仕事がしたいという想いから、博士課程への進学ではなく就職を考え、その中でも技術と世界を繋ぐ商社に興味を持ちました。

経理に配属になった当初は、基本的な経理知識しかなかったため会計知識の習得にも苦労しました。しかし業務に打ち込む中で、開示に繋がる数字を作ることと理系での経験は似ている部分も多いと

私の場合は入社以来3部門を経験してきましたわけですが、いずれの仕事もビジネスの基本は同じ。例えば、投資したお金をいかに回収していくか、事業リスクをどうコントロールしていくか、といった大枠のフレームワークや意識すべき点は共通で過去の経験が別の全く違う領域での仕事にも活かされます。商社であれば一つの会社で様々な事業に挑戦でき、また積極的にそういった機会も与えられる為、「色々な経験がしたい」という想いをお持ちの方にマッチするのではないのでしょうか。

現在は、当社が出資しているプラント建設の管理業務を担当しているのですが、建設会社の方や現地のエンジニアさらには共同株主など、国籍も立場も様々な関係者を取りまとも、全員が納得できるよう



考えるようになりました。研究で実験データをひとつひとつ積み重ねていった経験と、課題をひとつひとつクリアして正しい数字を作るといった現在の業務内容は、プロセスとしては同じだと気づいたのです。経理も研究も近道はなく、事実を積み上げていくしかないという点は共通しています。

理系での経験が活きる点や経理のやりがいを知ったことで、今後は「経理」の専門性を活かした仕事をしていきたいと考えるようになりました。また、当社には入社後6年以内に海外で働く制度があり、中南米の関係会社で経験を積むことを希望しています。そこで、私は経理部門という立場から、関係会社の問題をひとつひとつ解決し、会社の発展に貢献できればと考えています。

◆次世代事業

世界を舞台に、新たな技術や製品を広める

三井物産グローバル投資株式会社(出向) 投資部門/工学系研究科修士

稲木 聡啓(いなぎ あきひろ)

総合商社のネットワークを活かした投資業務を行う

ベンチャーキャピタル業を行う三井物産のグループ会社に在籍し、新規投資案件の発掘や投資先の事業価値を上げる業務を担当しています。これから数年で伸びると思われる技術やサービスを持ったベンチャー企業を世界中から探し出し、その成長性を調査した上で投資を行い、最終的には投資リターンを得ることを目指す事業です。投資先の事業価値向上のために、経営へのアドバイスを行うこともあり、時には製品の売上増を実現するために、ビジネスの仕組みづくりや、KPIの設定、実際の営業のサポートといった細かい部分まで踏み込むこともあり、枠にとられない行動が必要とされます。

総合商社がベンチャー投資を行う利点としては、グローバルなネットワークを活用できる点が挙げられます。例えば、アメリカのチームが米国の創業のベン

チャー企業に投資を行い、東京のチームが社内のネットワークを活かして日本の製薬会社を紹介することで、最終的に買収に至るといったこともあります。また、総合商社にはさまざまな事業領域が存在するため各分野の知見や人材も充実しており、新規投資案件の事業性検証に役立つのみならず、既存投資先の成長に貢献することも可能です。

論文を書くことは、**投資仮説を立てるプロセスと似ている**

この仕事の魅力は、常に新しい技術や製品に触れられる点や、それらを世に送り出すことを通じて社会に貢献できることです。投資を行うからには当然経済合理性に合致しなければなりません。自分の仕事を通じて世の中に変化を与えられる点は面白いと感じています。

私自身は大学で土木系の研究を行っていましたが、商社に入社した先輩社員から話を聞き、「海外を相手に仕事をした」「特定技術や分野に縛られない立ち



位置で働きたい」という想いから総合商社を志望しました。また、将来的には投資家としての立場からの仕事だけではなく、事業会社の経営や営業を行う仕事もしたいと考えていますが、そうした多様な立場での仕事に会社の中での異動を通して挑戦していくことができる点も、入社してから気づいた総合商社の良さですね。

ベンチャー投資の中にもさまざまな領域があり、それぞれに専門的な理系分野の知識が必要とされるため、その中には大学での知識が活かせる部分もあるかもしれません。何より、情報を集めて仮説を立て、検証データを集め、ロジックやストーリーを構築するという研究プロセスは、実は投資仮説を作ることと似ています。理系で培った思考を活かして、自分の知らなかった世界を経験できるというのは、好奇心旺盛な方にとっては非常に面白いと思います。